

LEIOだより

(1) 畜産環境技術研究所
(2) LEIO日誌
行事
人事異動

畜産環境技術研究所

たい肥と土壌養分分析に基づく調整施肥設計システムの開発

平成19年3月に公表された「家畜排せつ物の利用の促進を図るための基本方針」(農林水産省)において、喫緊に技術開発の推進に努めるべき課題として、ニーズに即したたい肥生産、悪臭の低減、たい肥の利用拡大等が挙げられています。これらの課題に的確に対処するため、畜産環境技術研究所では、平成19年度から3年間にわたって「家畜排せつ物利用促進等技術開発事業」に取り組んできました。その中で、土壌中養分の簡易推定法を開発し、既存のたい肥成分分析による肥効評価法を組み合わせ、かつ不足する肥料分は化学肥料で成分調整する施肥設計システムを開発したので紹介します。

作物が吸収する窒素は、土壌、施用する有機質資材(たい肥等)、化学肥料から供給されます。これらの窒素供給源から養分の供給量を把握し、作物の要求に過不足ない養分供給を行う施肥管理が環境保全型農業に求められておりますが、本システムでは、家畜ふんたい肥を適正に利用するために、作物が要求する施肥基準(基肥)の窒素量から土壌の有効態窒素量を差し引き、残った窒素量をたい肥と化学肥料で配分する方法で施肥設計を行っています(図1)。

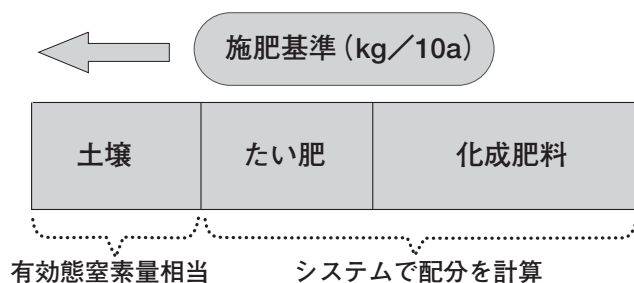


図1 土壌養分を考慮したたい肥と化成肥料による調整施肥設計のイメージ

個々の農家で使用するたい肥の有効態窒素量(成分×肥効率)、作物の種類および土壌の有効態窒素(可給態窒素と無機態窒素の合計)の残存・蓄積量は農家やほ場ごとに異なりますが、本システムでは、作付け前に必ず土壌分析とたい肥分析を行うことでこれらの情報を施肥設計に活かせるように工夫しています(図2)。システムの最大の特長は、施肥基準に基づき個々の農家の経営実態にあった、たい肥の施用および精密な減肥(窒素成分)の取り組みが可能となることです。システム(Windows XP / Excel 2003, 2.7Mb)および操作手順書は、畜産環境技術研究所のホームページ(<http://www.chikusan-kankyo.jp/>)よりダウンロードできます。なお、本システムに適する栽培作物は畑作、露地野菜作です。土壌タイプは黒ボク土、灰色低地土、赤黄色土です。作付け時期は春から秋に栽培される作物を対象としています。

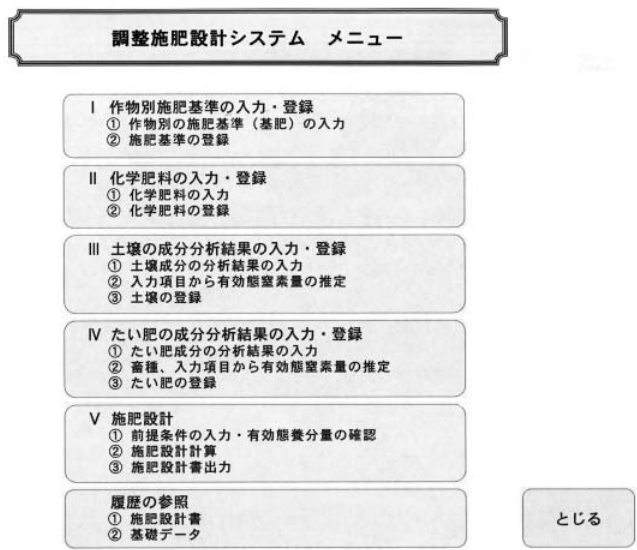


図2 システムメニュー

I 平成21年12月～平成22年6月までの出来事

総務部

- ・平成22年3月26日(金)
平成21年度第2回評議員・理事会(於:東京プリンスホテル)
- ・平成22年6月11日(金)
平成22年度第1回評議員・理事会(於:東京プリンスホテル)

II 平成22年7月以降の予定

平成22年度畜産環境アドバイザー研修の開催日程

1. 畜産環境アドバイザー研修(基礎技術コース)ー中央研修会

研修会名	講座名	開催年月日	開催場所
第1回中央研修会	臭気対策	22年10月18日～10月20日	家畜改良センター 中央畜産研修施設 (福島県白河)
第2回中央研修会	堆肥処理	22年11月8日～11月12日	
第3回中央研修会	汚水処理	22年12月13日～12月17日	
第4回中央研修会	臭気対策	23年2月8日～2月10日	

2. 畜産環境アドバイザー研修(基礎技術コース)ー地域研修会

研修会名	開催県	講座名	開催年月日
第1回地域研修会	北海道	堆肥化処理	22年7月26日～7月30日
第2回地域研修会	新潟県	汚水処理	22年8月2日～8月6日
第3回地域研修会	愛媛県	堆肥化処理	22年9月13日～9月17日
第4回地域研修会	北海道	汚水処理	22年9月27日～10月1日
第5回地域研修会	鹿児島県	汚水処理	22年10月25日～10月29日
第6回地域研修会	沖縄県	汚水処理	22年11月29日～12月3日
第7回地域研修会	愛知県	汚水処理	23年1月31日～2月4日
第8回地域研修会	滋賀県	堆肥化処理	23年2月28日～3月4日

3. 畜産環境アドバイザー研修(ステップアップコース)

研修会名	開催県	開催年月日	講座名
第1回ステップアップ研修会	愛知県	22年7月21日～7月23日	堆肥化処理

4. 畜産環境アドバイザー研修（スーパーアドバイザーコース）

研修会名	開催年月日	開催場所
前期研修	23年1月17日～1月21日	家畜改良センター
後期研修	23年2月21日～2月25日	中央畜産研修施設

Ⅲ 人事異動

【理事】

就任(22.4.1付)

小野 浩 二
 円谷 俊 夫
 村尾 誠

退任(22.3.31付)

山西 啓 士
 橋本 徳 人
 井田 光 之

就任(22.7.1付)

花澤 信 幸

退任(22.6.30付)

新城 恒 二

【監事】

就任(22.7.1付)

苔米地 達 生

退任(22.6.30付)

木村 元 治

【評議員】

就任(22.7.1付)

安井 護

退任(22.6.30付)

塩島 勉

【職員】

採用(22.4.1付)

業務部長 伊藤 憲 一
 総務部経理課長 矢野 泰 司
 業務部業務課長 伊藤 広 之
 畜産環境技術研究所
 研究開発部長 道宗 直 昭

退職(22.3.30付)

審議役 伊藤 憲 一

退職(22.3.31付)

参与 唐澤 俊 夫
 畜産環境技術研究所
 研究開発部長 館野 宏 司

退職(22.6.7付)

参与 野口 弘 昭

退職(22.6.30付)

特別研究員 小川 雄比古